

**令和 6 年度 第1回沖縄県地域公共交通協議会
議事要旨
＜令和 6 年 6 月 27 日＞**

**令和7年1月28日
沖縄県**

第 1 回沖縄県地域公共交通協議会

日 時：令和 6 年 6 月 27 日（木）
10 時 00 分～11 時 30 分
場 所：沖縄県庁 4 階 講堂

次 第

1 開 会

2 報告事項

- (1) 沖縄県地域公共交通計画について 参考資料①
- (2) 第 3 回 沖縄県地域公共交通協議会 議事要旨（R5） 参考資料②、②－2

3 議 題

- (1) 沖縄県地域公共交通計画（別紙）について 資料 1
- (2) 計画の推進について 資料 2、2－2
- (3) 分科会の設置について 資料 2

4 その他

参考資料③

- (1) 沖縄持続可能な交通環境構築推進事業について（リ・デザインの取組）
- (2) わった～バス利用促進乗車体験事業について

5 閉 会

【配布資料】

次第、配席図、出席者名簿、会議規約

- 資料 1 沖縄県地域公共交通計画（別紙）
- 資料 2 計画の推進及び分科会の設置について
- 資料 2－2

- 参考資料① 沖縄県地域公共交通計画及び概要版（冊子）
- 参考資料② 第 3 回 沖縄県地域公共交通協議会 議事要旨（R5）
- 参考資料②－2 第 3 回協議会意見を踏まえた計画（案）修正の内容について
- 参考資料③ その他

- 追加資料① 交通の再構築（リ・デザイン）による持続可能で心豊かな生活と観光の実現
- 追加資料② 地域公共交通計画の実質化に向けたアップデート

2 議事概要

1 報告事項について

(1) 沖縄県地域公共交通計画について

資料 No	委員	事務局
参考 資料①	泊港から、名護市の漁港、本部の渡久地港を利用して高速船が運航しているところ。 3割くらいは、地元の人が公共交通として利用されている。海上交通も本計画に対象にすべきではないか。 小川委員（琉球バス交通）	昨年度、様々な意見を頂き、最終的には、まずは、沖縄本島の陸上交通から計画をまとめたところ。海上交通等も課題ではあるが、まずは、陸上交通の取組を着実に進めながら、次の展開として、考えていきたい。

(2) 第3回沖縄県地域公共交通協議会 議事要旨（R5）について

資料 No	委員	事務局
参考 資料②	意見なし	
参考 資料 ②－2		

2 議事概要

2 議題

(1) 沖縄県地域公共交通計画（別紙）について

資料 No	委員	事務局
資料 1	意見なし	

(2) 計画の推進について

資料 No	委員	事務局
追加 資料① 追加 資料②	<コメント> ・沖縄県地域公共交通計画の推進に向けた取組の分科会の中で、この規制改革と連動した形で、生かした形で、地域との議論を進めしていきたい。 ・今後は、県の取組と連動した形で、地域の関係者住民等のワークショップなどを行いながら、地域の方々そして事業者の方々が、地域の持続可能性や移動の質の向上を考え、新しい交通サービスの新しい姿について議論し、市町村の地域公共交通会議や県の計画に基づく圏域ごとの分科会での議論などと連携して、各地域の計画のアップデートを後押ししていきたい。 星委員（沖縄総合事務局運輸部）	—
追加 資料②	<コメント> ・追加資料②の1ページのところで、データの活用については、活用することが目的ではなく、見直し等も含め一つのキーワードになる。 ・モデルアーキテクチャのところに記載のある、適材適所とは、全部やろうとするのではなく、適材適所をしっかりと考えようということを強調した。 ・県の役割として、市町村への支援充実と記載した。 ・トップランナーというの意味は、市町村において議論され、身の丈にあった計画ができて、しっかり回していく。県は、自治体を束ねて、県がやるべき役割を担っていくことにある ・国には、ガイダンスを行うことと、ポータルサイト作ること、人材育成に取組むこと等をお願いしている。 中村会長	—

2 議事概要

2 議題 (2) 計画の推進について

資料 No	委員	事務局
参考 資料①	・計画の概要版P9の強力に推進する施策・事業の視点1に関連して、拠点都市とあるが、この拠点都市はどこを指しているのか。基幹バスとバスターミナルとどうつながるのか。 ・地域の公共交通であるフィーダーと基幹バスシステム、これらを中心とした交通結節点をどうつなぐのか。 池田委員	(事務局) ・計画の中で、拠点都市を中心とした公共交通体系の構築というところで整理している。拠点都市を、那覇市、沖縄市、名護市を明記しており基幹バスを想定している。 ・沖縄県地域公共交通協議会に、北部・中部・南部の圏域ごとに分科会を設け、その分科会のなかで、基幹バスと地域のフィーダーをどのようにつなげていくか、各圏域で議論を詰めていきたいと考えている。交通事業者、市町村から意見を伺いながら、具体的なイメージをまとめていきたい。 (中村会長) ・この計画だけでは、まだ、具体化できていないの箇所もある。県、市町村、事業者等、できることから少しずつ取組んでいただきたい。
参考 資料①	・基幹バスの構想段階で、リニアターミナル構想について議論した結果、胡屋にターミナルをおく構想がなくなった経緯がある。仮に胡屋にターミナルができたとしても、そこに胡屋のバス停があるわけですから、さらに、(ターミナルに)寄ったり、迂回するのは時間がかかる。 ・一方で、乗務員は限られており、労働時間については、沖縄労働局からは法令遵守を徹底するよう求められている。そういう現状を認識し、皆さんにも考えていただきたい。 小川委員 (琉球バス交通)	(事務局) ・地域の公共交通を維持していくためには、様々な側面から、関係者の皆様の事情等を勘案したうえでの実施が必要。今後、分科会で、関係者と共有し、議論を進めたい。 (中村会長) ・バスターミナルができたからといって最初から決め打ちをしないで、場合によっては制度の見直し等、コミュニケーションをしっかりと取っていかないと、普段からコミュニケーションを取っていないと、いざという時にお互いに構えてしまう。それは避けたいところ。この協議会で、または、分科会で丁寧に議論していきたい。

2 議事概要

2 議題 (2) 計画の推進について

資料 No	委員	事務局
参考資料①	(続き) ・基幹バスの構想段階で、リニアターミナル構想について議論した結果、胡屋にターミナルをおく構想がなくなった経緯がある。仮に胡屋にターミナルができたとしても、そこに胡屋のバス停があるわけですから、さらに、(ターミナルに)寄ったり、迂回するのは時間がかかる。 ・一方で、乗務員は限られており、労働時間については、沖縄労働局からは法令遵守を徹底するよう求められている。そういう現状を認識し、皆さんにも考えていただきたい。 小川委員 (琉球バス交通)	(沖縄総合事務局 開発建設部) ・胡屋のバスタの件については、沖縄市と連携しながら取り組んでいる。現時点の課題として、例えば、路線バス、基幹バス等は、一部既存のバス停を使用されているが、集中してしまい、バスがはみ出る状況が見られたり、コミュニティバスと路線バスがうまく連携するような、双方いいような形ができればと考えている。 ・県の基幹バスの取組や、沖縄市のコミュニティバスのルートについて検討していただき、路線バスについても基幹バスの方の再編等取り組んでいただきたい。 ・海上交通との結節というところで、名護バスタでうまくできるようになれば、地域の足として、もしくは観光客への利用という観点からも非常に良いものになっていくものとかんがえているので、今後議論の方よろしく願いたい。
参考資料①	・免許取得にかかる補助について、具体的なことは決まっているのか。免許の取得については、40万以上かかる。若い人にとっては負担が大きいの、今後運転手を職業として選択しない可能性もあるので支援していただきたい。 宮城委員 (北部観光)	・今の免許取得の支援については、昨年度から始まっており、今年度も計画的に進めているところ。国・県で2分の1ずつ補助し、事業者で1/4負担となっている。具体的には、後ほど事業者の皆様ご案内するが、積極的に活用していただきたい。
資料2-2	・沖縄本島の陸上交通に限定しているが、将来的には、他の交通モード(県内の離島空路・航空路)も含め、離島地域についても、計画へ反映したほうが良いのではないかな。 ・公共交通の利便性・持続性を考慮した目指すサービスレベルについても議論すべき。 ・法定協議会を設置していない市町村がある。国事業活用による交通施策の展開も見据え、市町村においても、法定協議会の設置や、地域公共交通計画の策定に取り組むなど、それぞれの市町村で考えて欲しい。 神谷委員 (※事前に意見聴取)	・他の交通モード(県内の離島空路・航空路)、サービスレベル等についても重要な問題であるが、次の段階での課題として、盛り込んでいきたい。

2 議事概要

2 議題

(3) 分科会の設置について

資料 No	委員	事務局
資料2	意見なし	